

## 精神障害・発達障害のある人の新たな課題、障害当事者・家族からの提案

## 1. ウィズコロナ時代における精神障害者に対する接遇・介助

場面	新たな課題	当事者からの提案
買い物	洋服やアクセサリー店などで、接近されると感染する／させてしまうのではないかという不安がある	接触は最低限に留め、ポスターやカードなどの指さして意思表示できるようにする
飲食	「ご注文を繰り返します」など話されると飛沫が怖いので、極力しゃべらないようにしてほしい	タブレットなどの機器を駆使して注文ややりとりをできる環境の整備をする、食券制にする
交通機関	ヘルプマークを着けていると「席譲れマークだ」などと嫌味を言われるようなことが増えてしまった	車内や駅などにヘルプマークの趣旨がわかりやすく伝わるようなポスターを掲示する
医療サービスの利用1	診察で以前より医師から物理的に距離を取られているので、本当にきちんと診察してもらえているのか不安	平時から信頼関係を築いておくこと、いつも以上に医師が意識して「安心」を提供すること
医療サービスの利用2	薬を自宅で受け取れるように厚生労働省から通達が出ているのに通院先が対応してくれなかった	医療機関への周知徹底を行い、利用者サイドの権利を周囲の人と確認しておく
福祉サービスの利用1	家事援助で介助者が家に来るが、距離が近いので感染する／させるのではないかという不安がある	マスク着用・うがい手洗いなど基本を徹底して安心を確保する、適切な距離を取る
福祉サービスの利用2	3密回避が叫ばれているのに事業所は人がいっぱい。でも居場所があるだけありがたいと思わないといけない	施設で換気や感染症対策をしっかりとっていることを事業所と当事者が一緒に確認する
その他1	マスクをしていないと非難されるのではないか、どこかでマスクを忘れたらという不安が常につきまとう	どこでも必需品が手に入るよう例えばマスクや消毒液の自動販売機などがあると助かる
その他2	相手が目に見えないウイルスということで、社会全体がギスギスしていて生きづらさを感じる	生きづらさを共有・解放するようなピアサポートグループの持ちかたを仲間で考えアイデアを出しあう

## 2. ウィズコロナ時代における発達障害者に対する接遇・介助

場面	新たな課題	当事者からの提案
買い物	コミュニケーションが減ってしまったので自分の意思がきちんと伝わっているのか気になってしまう	文字やピクトグラム表示を増やして、指さしなどで意思表示できるようにする
飲食	どういうタイミングでマスクを外していいかわからない。食べ終わってもマスクをつけない人がいることが怖い	席の配置や換気をしているので過度に怖がる必要はないことをお知らせする
交通機関	電車やバスなどの公共交通機関が怖くて使えなくなり、移動手段に困るので自宅にこもるようになった	公共交通機関での感染はほとんどないという事実を周知する
医療サービスの利用	医療機関＝感染リスクの高い場所、のように感じてしまって内科などに以前のようにかかれなくなった	医療機関＝感染リスクが高いわけではないので、偏見を除去して安心を提供する
福祉サービスの利用	作業所や地域活動支援センターなど、人が密集したり接近したりする場所が怖い	センターや作業所で取っている感染対策をしっかり伝え消毒用アルコールの携帯など自衛できることは皆で行う
その他	ソーシャルディスタンス「2m」とされているのに2mをキープしていない人がいると不安になってしまう	「2m」はあくまでも目安だということを当事者と一緒に確認する
マスク着用について	感覚過敏のためマスクをつけ続けることが困難な人、苦手な人がいる。マスク必須のような風潮がづらい	「マスクがつけられません」カード・マークや肌に触れない扇子型のマスクを周知する <a href="https://kabin.life/archives/1633">https://kabin.life/archives/1633</a>

## 3. まとめ

精神障害者も発達障害者も、キーワードは「安心」。

ウィズコロナ時代に突入し、これまで見過ごされてきた多様性が重要な時代になったともいえる。ピンチをチャンスに変えるためにも、さまざまな人がいて社会は成り立っていることを、あらためて社会全体で共有し、社会の形について多くの人と考えていきたい。